

# 荒川区立幼稚園の方向性について

令和4年8月

荒川区教育委員会事務局

## 目 次

はじめに	1
1 荒川区の区立幼稚園等の現状と課題	2
(1) 区立幼稚園等の経緯	2
(2) 園児数の状況	3
(3) 特別な支援を必要とする幼児への対応について	5
(4) 保護者の方々からのご意見について	5
2 区立幼稚園に求められる機能	6
3 区立幼稚園の方向性	6
(1) 質の高い幼児教育の実現	6
(2) 区立幼稚園の再配置の実施	7
(3) 預かり教育の評価と拡充	7
(4) 給食提供の検討	8
(5) 特別な支援を必要とする園児に対する送迎支援の検討	8
(6) 私立幼稚園との連携	8
4 区立幼稚園の再配置の考え方	9
(1) 再配置の考え方について	9
(2) 再配置及び閉園の予定園について	9
(3) 各地区の状況等について	10
5 実施時期等について	12
(1) 再配置実施のスケジュールについて	12
(2) 学級編制基準の取り扱いについて	13
(3) 預かり教育の全園実施について	13
(4) 給食提供の検討	13
参考資料	
資料1 地区別・町丁別年齢別人口推移まとめ	14

はじめに

近年では、少子化や核家族化の進行に加え、共働きの子育て世帯の増加、就労環境の多様化等により、就学前の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

しかし、そうした中であっても幼児期は、心情や意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、幼児期における教育は、子どもたちの今後の成長に大きな影響を与えます。

荒川区では、未来社会の守護者である子どもたちが質の高い幼児教育を受けられるよう、時代背景や区民の要望に応じた環境整備に取り組んできました。子どもたちを取り巻く環境の変化と幼児教育の重要性を改めて見つめ直し、今回、これまで検討してきた区立幼稚園の今後の方向性について、保護者説明会やパブリックコメントの意見等を踏まえ、その内容を最終案に取りまとめたので、ここに報告いたします。

## 1 荒川区の区立幼稚園等の現状と課題

学校教育法第1条に「学校」と定められている幼稚園は、同22条で「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」とされている。私立幼稚園、区立幼稚園に拘わらず、その目的を果たすために幼稚園教育要領に則った教育を実施しており、私立幼稚園と区立幼稚園が両輪となって荒川区の幼稚園教育を担ってきた。

これまでの区立幼稚園等の経緯と今後の方向性について検討する際の前提となる現状と課題は以下のとおりである。

### (1) 区立幼稚園等の経緯

区立幼稚園は、戦後の人口増加による幼稚園需要の拡大に伴い、荒川区の幼児教育の先駆的な役割を果たしてきた私立幼稚園を補完する形で、昭和24年に尾久幼稚園及び日暮里幼稚園が設立され、昭和52年に10園目となる花の木幼稚園が設立された。その後、園児数の減少に伴い、平成11年度をもって峡田幼稚園と南千住幼稚園が閉園となり、現在は8園となっている。

教育環境の充実策としては、平成20年度から3歳児保育の全園実施を開始したほか、令和元年度からは日暮里幼稚園で預かり教育をモデル実施している。また、町屋幼稚園と第七峡田小学校をモデル園・校に指定して就学前教育と小学校教育の連携事業を実施するなど、区立幼稚園の教育内容の向上に努めてきた。

区立汐入こども園は、汐入地区における幼稚園及び保育園需要に応えるため平成20年度に設立され、平成22年度に現在の場所（汐入東小学校1階部分）に移転した。0歳から就学前までの継続的かつ一貫した教育・保育を行う施設であり、地域における子育て家庭の支援を行うための事業（一時保育・子育て交流サロン）も実施している。

(2) 園児数の状況

区立幼稚園は令和4年5月現在、各園とも3歳児・4歳児・5歳児各35名の105名の定員で園児を受け入れている（南千住第二幼稚園の3歳児は30名、※園定員100名）。入園率（定員に対する園児数の割合）は3～5歳児全体で約36%となっており、これは入園率が約68%であった平成25年度以降、減少傾向にある。減少の原因としては、共働きの子育て世帯の増加など社会環境の変化等に伴う保育需要の高まりや、幼児教育・保育の無償化により、私立幼稚園と比較した際の保育料等の費用面における優位性が区立幼稚園になくなったこと等が考えられる。なお、汐入こども園についても、幼稚園部分の短・中時間保育の園児数が減少傾向にある。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
学齢数	5,010	5,018	5,047	5,106	5,200	5,196	5,304	5,259	5,075	4,802
区立幼	723	703	679	638	577	527	500	431	399	335
私立幼 (区内園)	808 (695)	790 (672)	817 (694)	820 (698)	1,065 (803)	856 (806)	1,024 (798)	934 (760)	916 (752)	799 (673)
保育園	2,238 (2,207)	2,381 (2,348)	2,528 (2,513)	2,690 (2,652)	2,824 (2,793)	2,903 (2,879)	3,146 (3,125)	3,228 (3,211)	3,192 (3,176)	3,130 (3,101)

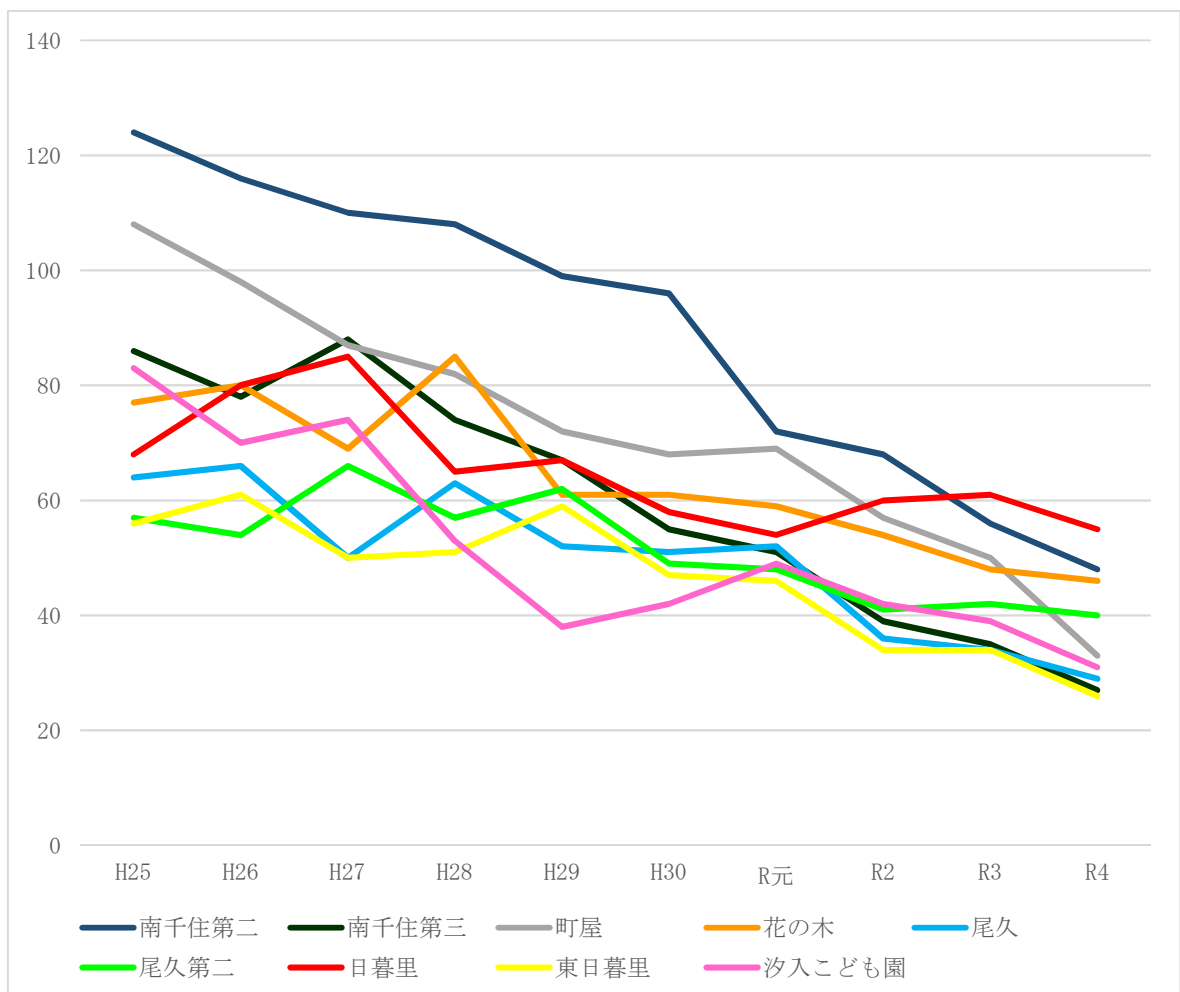
※3歳から5歳の総園児人数、私立幼・保育園の（）内は区民園児数。

各年度5月1日現在の園児数。

また、各園の園児数の状況は下記のとおりである。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
南千住第二	124	116	110	108	99	96	72	68	56	48
南千住第三	86	78	88	74	67	55	51	39	35	27
町屋	108	98	87	82	72	68	69	57	50	33
花の木	77	80	69	85	61	61	59	54	48	46
尾久	64	66	50	63	52	51	52	36	34	29
尾久第二	57	54	66	57	62	49	48	41	42	40
日暮里	68	80	85	65	67	58	54	60	61	55
東日暮里	56	61	50	51	59	47	46	34	34	26
汐入こども園	83	70	74	53	38	42	49	42	39	31

※各年度5月1日現在の園児数。



(3) 特別な支援を必要とする幼児への対応について

都内には特別支援学校の幼児部が設置されておらず、区立幼稚園が特別な支援を必要とする幼児を受け入れる場合には、幼児教育補助員を配置し、集団教育を受けられる体制を整えている。

前述のとおり、区立幼稚園全体の園児数が減少している一方で、特別な支援を必要とする園児数は増加傾向にある。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
対象園児数	30	36	50	43	99	88	102	96	101	99
補助員配置数	23	24	31	27	52	52	58	56	60	68

※各年度5月1日現在の人数

(4) 保護者の方々からのご意見について

令和4年現在、区立幼稚園（日暮里幼稚園を除く）の1日の教育時間については、幼児の幼稚園における教育の時間の長さの妥当性や家庭等における生活の重要性等を総合的に考慮して9時～14時までとしている。しかしながら、現状の教育時間では、共働き世帯にとって就園施設の選択肢として区立幼稚園を選びにくい状況になっており、入園申込時に行う保護者対象アンケート調査においても、預かり教育の各園展開により子どもの預かり時間をもっと長くしてほしいという意見が挙がっている。

また、区立幼稚園の昼食はお弁当持参となっており、食を通じた親子のコミュニケーション機会づくりや、食に対する知識・意欲の向上等を図っているが、一方で毎日のお弁当の準備に伴う家事を負担と感じている保護者もいる。

こうした意見を踏まえ、区では平成29年度より預かり教育のモデル実施に向けた体制構築の準備を始め、平成31年度4月より運営を開始した。預かり教育の検証結果を踏まえた実施園の拡大を職員の再配置と合わせ検討するとともに、給食提供についても実施に向け検討を進める。

## 2 区立幼稚園に求められる機能

- (1) 特別な支援を必要とする園児の人数は、増加傾向にあり、就学前教育を行う場として受入れ先を確保しておく必要がある。
- (2) 荒川区内の就学前教育と小学校教育の円滑な接続ができるよう、小学校との一層の連携強化に向けた実践研究と研究成果の普及を図る役割が求められている。
- (3) 日暮里幼稚園でモデル実施している預かり教育実施園の拡大や給食提供等、社会環境の変化や保護者のニーズを踏まえたサービス面の充実が求められている。
- (4) 区立・私立の幼稚園が相俟って荒川区の幼児教育の一層の質の向上と充実を図ることが求められている。

## 3 区立幼稚園の方向性

### (1) 質の高い幼児教育の実現

特別な支援を必要とする幼児の就学前教育の場として、引き続き幼児教育補助員を適切に配置するとともに、より良い支援の方法について検討と実践を重ねながら、他の未就学施設に対してのモデル的役割を果たす。

また、就学前教育から小学校教育への移行における小1プロブレムへの対応についても、小学校との交流教育や研究会等を引き続き実践する。実践例の一つである、東京都からの委任のもと町屋幼稚園と第七峡田小学校をモデル園・校とした幼小連携事業についても、研究成果を、他の未就学施設に対しても広く還元していくことで、荒川区全体の就学前教育の質の向上に寄与していく。

加えて、幼児の体力向上の促進に向け、運動機能向上に資する取り組みを推進するとともに全ての区立幼稚園が必要に応じて小学校の校庭を利用した活動が展開できるよう、小学校とのより一層の連携強化を図っていく。



## (2) 区立幼稚園の再配置の実施

社会環境の変化等に伴い、区立幼稚園の園児数は減少傾向が続いており、近年においては3歳児学級編制における最小人数である8人を申込受付時点で下回る事例も発生している。こうした園の小規模化にともない、十分な集団活動が行えないことや、園行事の活性化に支障が出ることで懸念されるだけでなく、保護者負担の増加にも繋がるおそれがある。

区立幼稚園需要の変化に対応しながら、荒川区の幼児教育を継続的に提供するためには、各園における適正な規模による集団教育活動に資するため、区立幼稚園の再配置を実施しながらも、社会環境の変化に合わせた充実策を施していく必要がある。区立幼稚園の再配置の実施に関する詳細内容については「4 区立幼稚園の再配置の考え方」に記載のとおりである。

## (3) 預かり教育の評価と拡充

平成31年度から日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育について、月額利用（就労等を要件とした定期的な利用）においては定員に近い人数の利用者登録が例年行われている。また、日額利用（要件を問わないスポット利用）においても、一定数の利用があり、それぞれに需要があるものと評価している。今後は、現在モデル実施を行っている預かり教育を再配置と同時に全4園で実施する。また、預かり教育の実施に向け人員を充実させるため、再配置に合わせた職員の異動を実施する。

単位：人

	R1	R2	R3
月額利用登録最大人数 / 月 (定員25人)	12	25	23
日額利用者最大人数 / 日 (定員10人)	10	7	7
年間延べ利用者数(月額利用 と日額利用の合計)	1,581	2,920	3,557

#### (4) 給食提供の検討

給食提供の実施については、お弁当の準備に伴う保護者の家事負担や幼児教育・保育の無償化の影響を鑑みた経済面の負担の軽減、私立幼稚園に与える影響等に配慮しつつ、早期の実施に向けて検討する。また、幼児教育・保育の無償化に伴い、私立幼稚園における給食提供との平準化を図る。

#### (5) 特別な支援を必要とする園児に対する送迎支援の検討

再配置の実施によって、最寄りの区立幼稚園への通園距離が長くなることが懸念される。再配置の実施後においても、特別な支援を必要とする園児が安心して区立幼稚園に通園できるよう、園児の状況や通園距離等を考慮した送迎支援を検討する。

#### (6) 私立幼稚園との連携

区立、私立が連携して、取り組み内容等を園長会、研究発表会等で公表するなど、情報を共有しやすい環境を整え、荒川区の幼児教育全体の一層の質の向上を図る。

また、特別な支援を要する園児への対応についても、区立、私立が取り組みや情報を共有し、各園における特別支援に関わる教育環境の充実を図る。

#### 4 区立幼稚園の再配置の考え方

##### (1) 再配置の考え方について

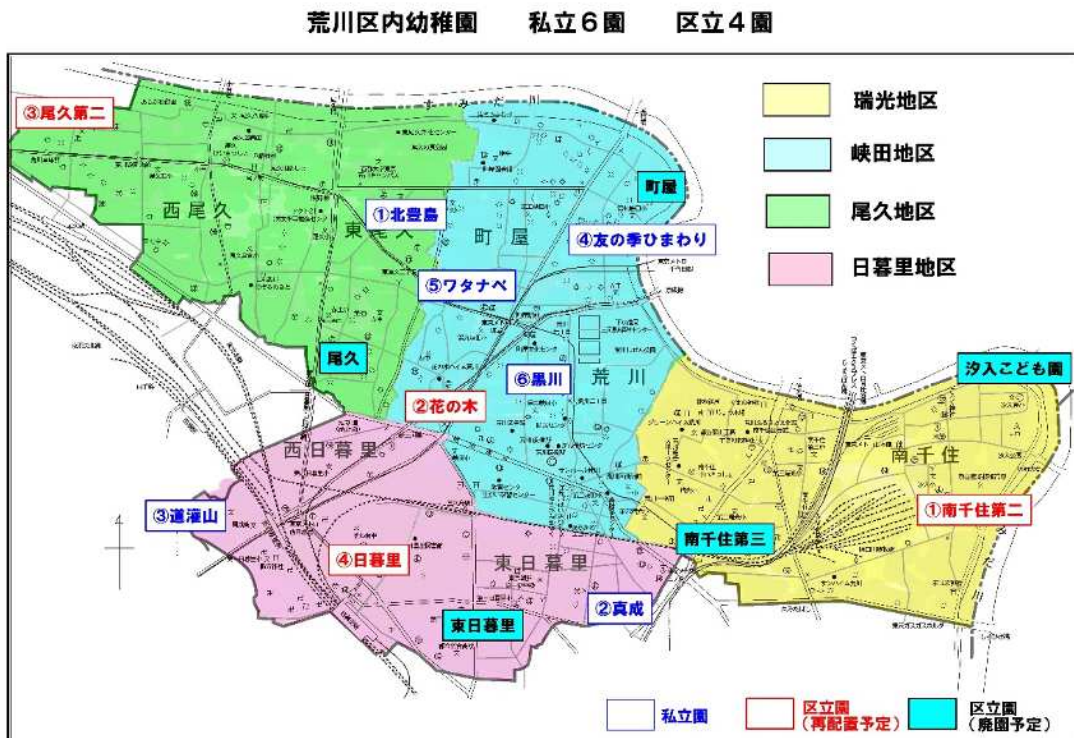
以下の観点から総合的に判断し、再配置を行う。

- ①荒川区内の幼稚園配置における地域バランスの配慮
- ②園児数の推移及び幼児人口の状況
- ③各地区の状況や各園の施設環境など

##### (2) 再配置及び閉園の予定園について

上記の判断基準を踏まえ、瑞光、峡田、尾久、日暮里の小学校学区の各地区に計4園（南千住第二、花の木、尾久第二、日暮里）を配置する（再配置後の荒川区内幼稚園配置図については下記参照）。

また、汐入こども園（短・中時間保育）は、この再配置と合わせ廃止することとし、保育施設として運営を行う。



### (3) 各地区の状況等について

#### 【瑞光地区】

瑞光地区において、南千住八丁目では大幅な幼児人口の減少が見られ、それに比例する形で周辺園の園児数が減少している。前述のとおり、汐入こども園は、汐入地区における幼稚園及び保育園需要の急激な増加に応えるために設立された経緯があり、幼稚園需要が減少している現状においては幼稚園としての当初の役割を終えたものと考えている。

南千住第三幼稚園においては、近隣に真成幼稚園があり、通園エリアが重複している状況である。また、園周辺の幼児人口の推移は横ばいではあるが、園児数の減少傾向が続いていること等も踏まえ、閉園することとする。

なお、南千住第二幼稚園については、前述の区立幼稚園の方向性における充実策を実施していくことに留まらず、現在も実施している汐入小学校や汐入ふれあい館との連携を強化し、一層の魅力向上に努めていく。

#### 【峡田地区】

峡田地区において、町屋幼稚園に現在通っている園児の通園状況を見ると、隅田川沿いの一帯（町屋五丁目～八丁目周辺）に集中している状況である。現在、町屋地域には、区立幼稚園及び私立幼稚園（友の季ひまわり幼稚園・ワタナベ学園）合わせて3園あり、通園エリアが重複している状況である。また、町屋幼稚園と花の木幼稚園を比較した際に、両園の園周辺の幼児人口の推移はともに横ばいではあるが、町屋幼稚園の方が園児数が大きく減少している。以上のことを踏まえ閉園することとする。町屋幼稚園で実施してきた幼小連携事業は、他の未就学施設に展開していくためのモデルとしての位置づけであり、今後はこの取り組みを全区立幼稚園との連携においても応用させていくことが重要である。加えて、小学校における特別支援学級の需要が増加していることから、閉園後の施設については、小学校における特別な支援を必要とする児童の就学のを確保するために有効活用することを検討していく。

一方で、花の木幼稚園に現在通っている園児の通園状況を見ると、荒川以外にも東尾久・町屋・日暮里など多地区から通園しており、区全体の中心部に位置することで、広域からの園児を受入れやすい環境となっている。また、隣接する荒川五丁目公園を園庭として利用しており、公園遊具や砂場などを活用し

て遊びを通じた学びを推進している。今後も第九峽田小学校との一層の連携を図り、芝生の校庭での教育活動など、魅力向上に努めていく。

#### 【尾久地区】

尾久地区において、東尾久地域には北豊島幼稚園と尾久幼稚園の2園がある。尾久幼稚園においては、園児数の減少が続いているだけでなく、施設面においても他の幼稚園と比較して狭小な園庭であること等も踏まえ、閉園することとする。

西尾久地域は、尾久第二幼稚園が唯一の幼稚園であることに加え、毎年一定数のお子さんが東京都北区の幼稚園へ通園している状況が確認されていることから、尾久第二幼稚園におけるサービス面を充実することにより、荒川区民の幼稚園需要の受入れ先の確保に努めていく。

#### 【日暮里地区】

日暮里地区において、西端の道灌山幼稚園と東端の真成幼稚園の間に日暮里幼稚園及び東日暮里幼稚園の2園が配置されている状況である。東日暮里幼稚園については、真成幼稚園と通園エリアが重複することに加え、園周辺の幼児人口の推移は横ばいではあるが、園児数の減少傾向が続いていること等を踏まえ閉園することとする。また、小学校における特別支援学級の需要が増加していることから、閉園後の施設については、小学校における特別な支援を必要とする児童の就学の場を確保するために有効活用することを検討していく。

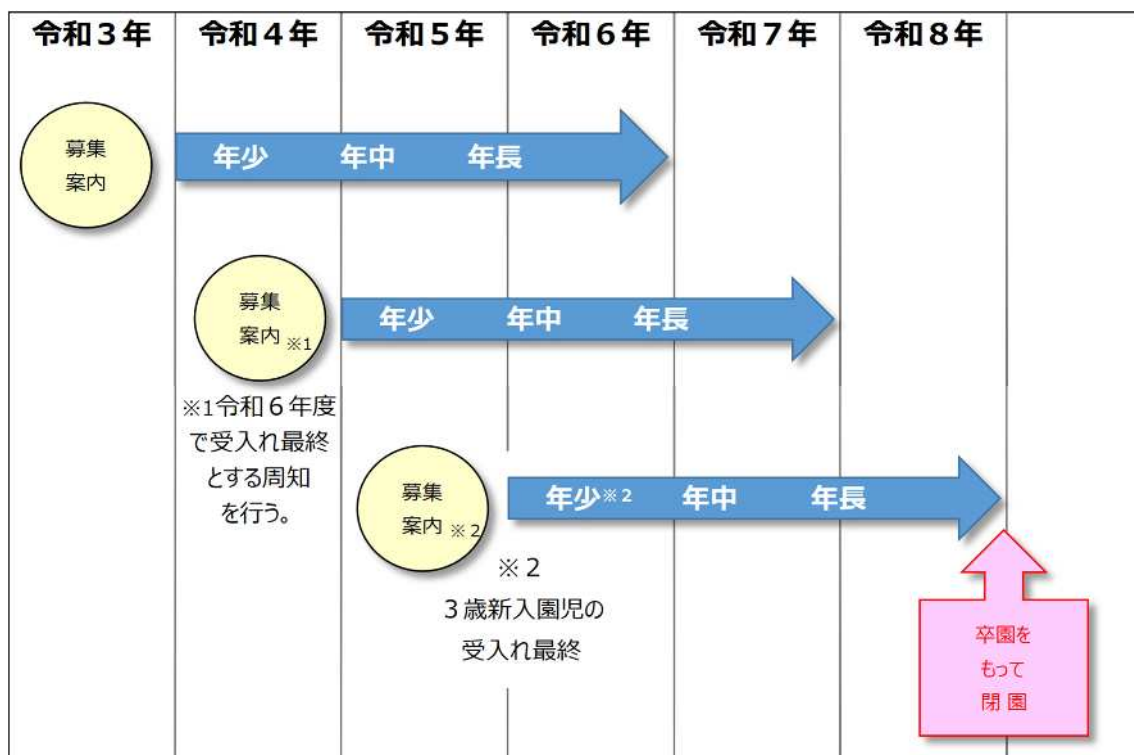
日暮里幼稚園については、東日暮里及び西日暮里の両地域からの幼児を中心に受入れている。また、JR日暮里駅からも近い立地条件にあることから、現在モデル実施をしている預かり教育を行う上でも、保護者の利便性も高く、今後も幼稚園需要が見込まれる。今後もひぐらし小学校との連携を強化するとともに、施設面における駐輪スペースなどの課題については近隣区有施設との連携により解消を図っていく。

## 5 実施時期等について

### (1) 再配置実施のスケジュールについて

再配置に伴い、閉園となる4園（南千住第三、町屋、尾久、東日暮里）については、令和6年度3歳新入園児の受入れを最終とし、令和8年度末をもって閉園とする。なお、令和4年度に行う園児募集時（令和5年度入園児）から募集要項等に再配置に関する事項を明記し、周知を行う。

また、汐入こども園（短・中時間保育）についても同様のスケジュールで廃止し、令和9年度以降は保育施設として運営を行う。



(2) 学級編制基準の取り扱いについて

園児数の減少に伴う区立幼稚園の小規模化の現状を見直し、効果的な教育活動及び適正な幼稚園運営を行うために、下記の学級編制基準は、引き続き、適用する。

学級編制を行う基準（令和2年9月15日付文教・子育て支援委員会）

(1) 3歳児の新入園児については、最小園児数は8人とし、7人以下の場合は学級編制を行わず、募集を中止する。

(2) 学級編制を2年続けて行わなかった場合は、閉園を検討する。

(3) 預かり教育の全園実施について

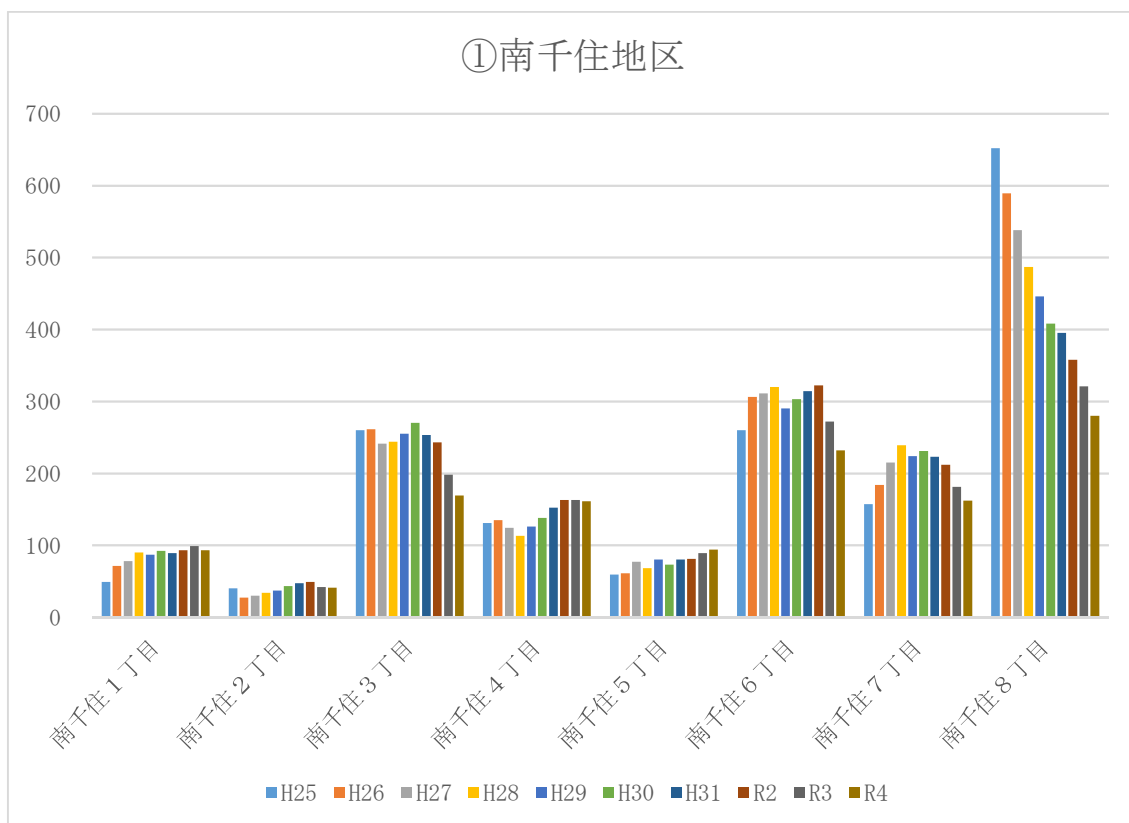
再配置による幼稚園教諭等の人事異動を踏まえ、4園体制となる令和9年度から、現在日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全園で実施する。

(4) 給食提供の検討

閉園予定の園も含め、全園での早期の実施を目指す。

資料1 地区別・町丁別年齢別人口推移まとめ（各年5.1時点 3～5歳集計）

【瑞光地区】

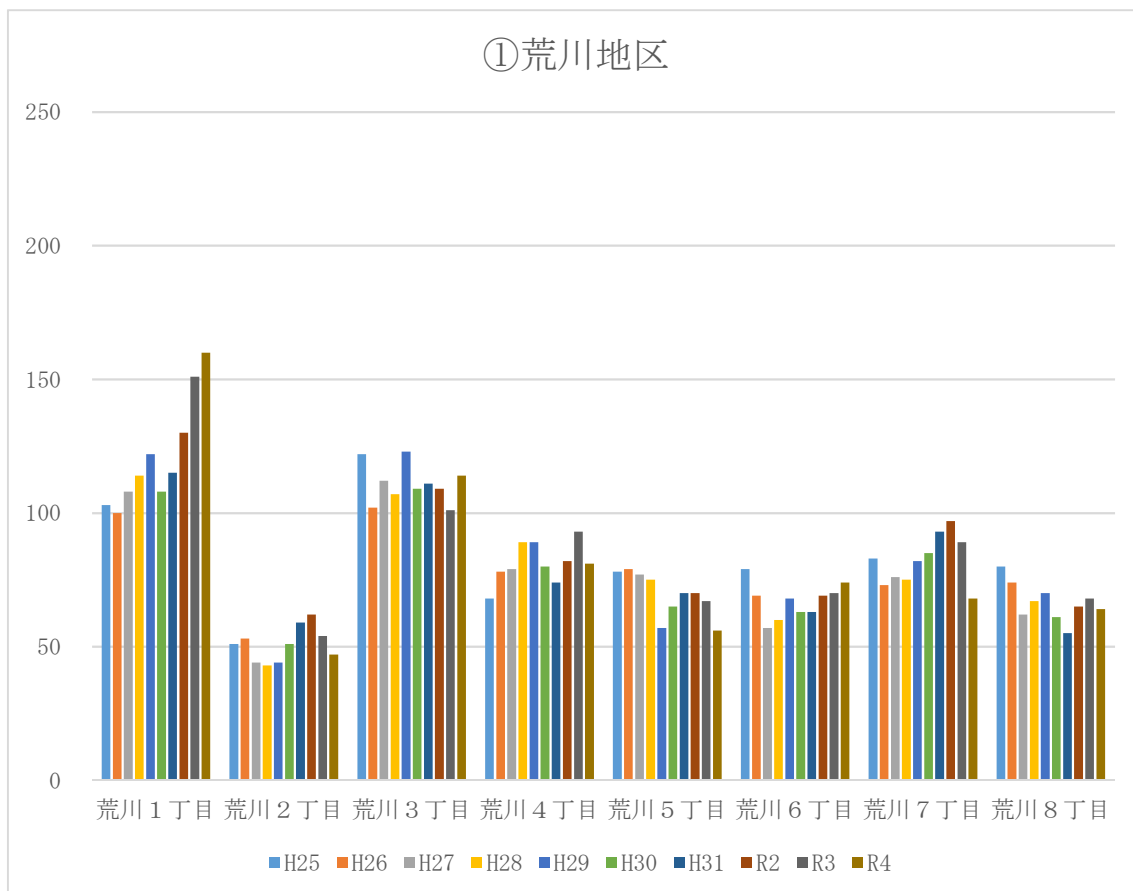


単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
南千住1丁目	49	71	78	90	87	92	89	93	99	93
南千住2丁目	40	27	30	34	37	43	47	49	42	41
南千住3丁目	260	261	241	244	255	270	253	243	198	169
南千住4丁目	131	135	124	113	126	138	152	163	163	161
南千住5丁目	59	61	77	68	80	73	80	81	89	94
南千住6丁目	260	306	311	320	290	303	314	322	272	232
南千住7丁目	157	184	215	239	224	231	223	212	181	162
南千住8丁目	652	589	538	487	446	408	395	358	321	280
南千住全丁目	1,608	1,634	1,614	1,595	1,545	1,558	1,553	1,521	1,365	1,232
南二幼周辺 (南千住3,4,7,8丁目合算)	1,200	1,169	1,118	1,083	1,051	1,047	1,023	976	863	772
南三幼周辺 (南千住1,5,6丁目, 荒川1丁目, 東日暮里1丁目合算)	538	609	644	664	651	657	672	685	664	627
汐入こども園周辺 (南千住3,4,7,8丁目合算)	1,200	1,169	1,118	1,083	1,051	1,047	1,023	976	863	772



【峡田地区】



単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
荒川1丁目	103	100	108	114	122	108	115	130	151	160
荒川2丁目	51	53	44	43	44	51	59	62	54	47
荒川3丁目	122	102	112	107	123	109	111	109	101	114
荒川4丁目	68	78	79	89	89	80	74	82	93	81
荒川5丁目	78	79	77	75	57	65	70	70	67	56
荒川6丁目	79	69	57	60	68	63	63	69	70	74
荒川7丁目	83	73	76	75	82	85	93	97	89	68
荒川8丁目	80	74	62	67	70	61	55	65	68	64
荒川全丁目	664	628	615	630	655	622	640	684	693	664
花の木幼周辺 (荒川4～7丁目, 東尾久1丁目, 西日暮里1,6丁目合算)	588	597	589	638	644	639	656	662	645	595

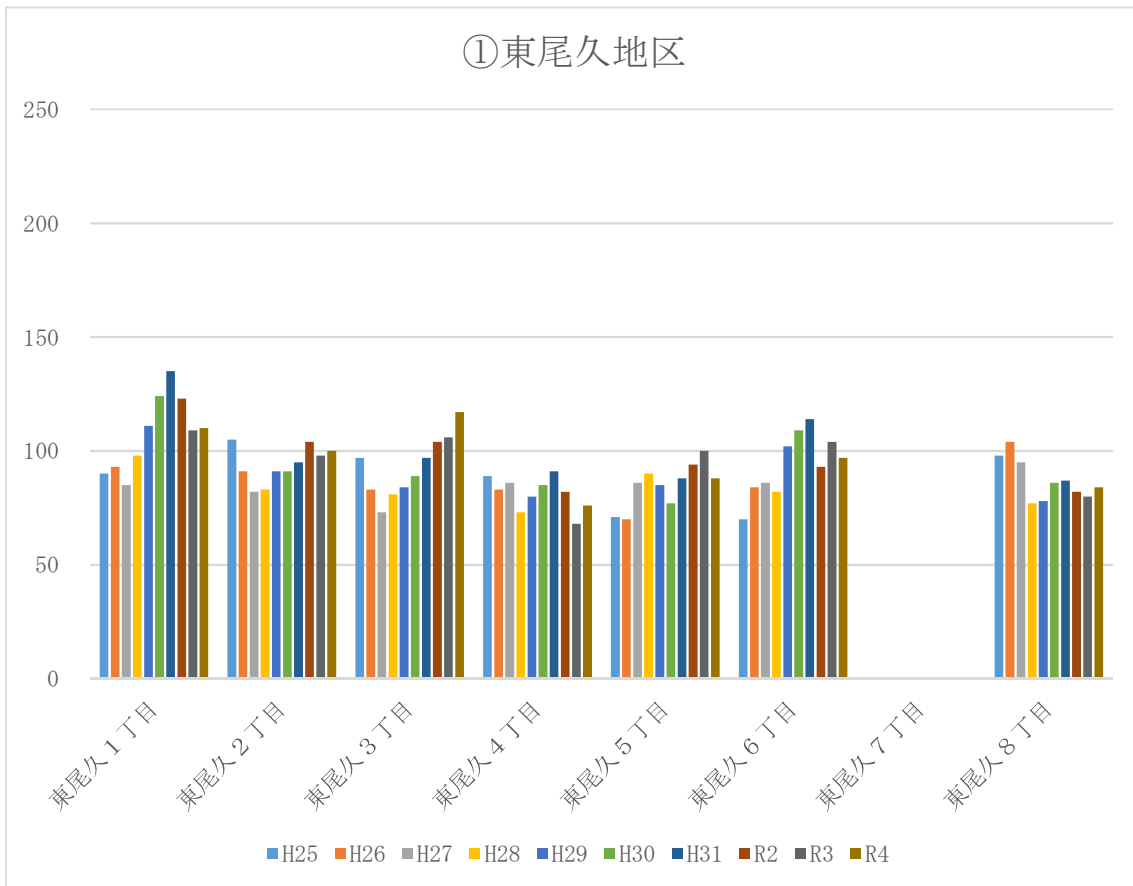
## ②町屋地区



単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
町屋1丁目	67	64	74	70	81	92	105	112	108	95
町屋2丁目	30	35	37	46	42	38	44	34	42	43
町屋3丁目	67	83	74	82	81	82	81	84	92	84
町屋4丁目	71	68	77	73	69	63	69	66	64	58
町屋5丁目	137	132	131	120	116	115	116	114	118	116
町屋6丁目	120	113	111	115	114	99	98	100	98	87
町屋7丁目	119	112	90	97	96	94	87	80	76	64
町屋8丁目	68	68	75	71	70	65	69	68	67	65
町屋全丁目	679	675	669	674	669	648	669	658	665	612
町屋幼周辺 (町屋1,3,6~8丁目合算)	441	440	424	435	442	432	440	444	441	395

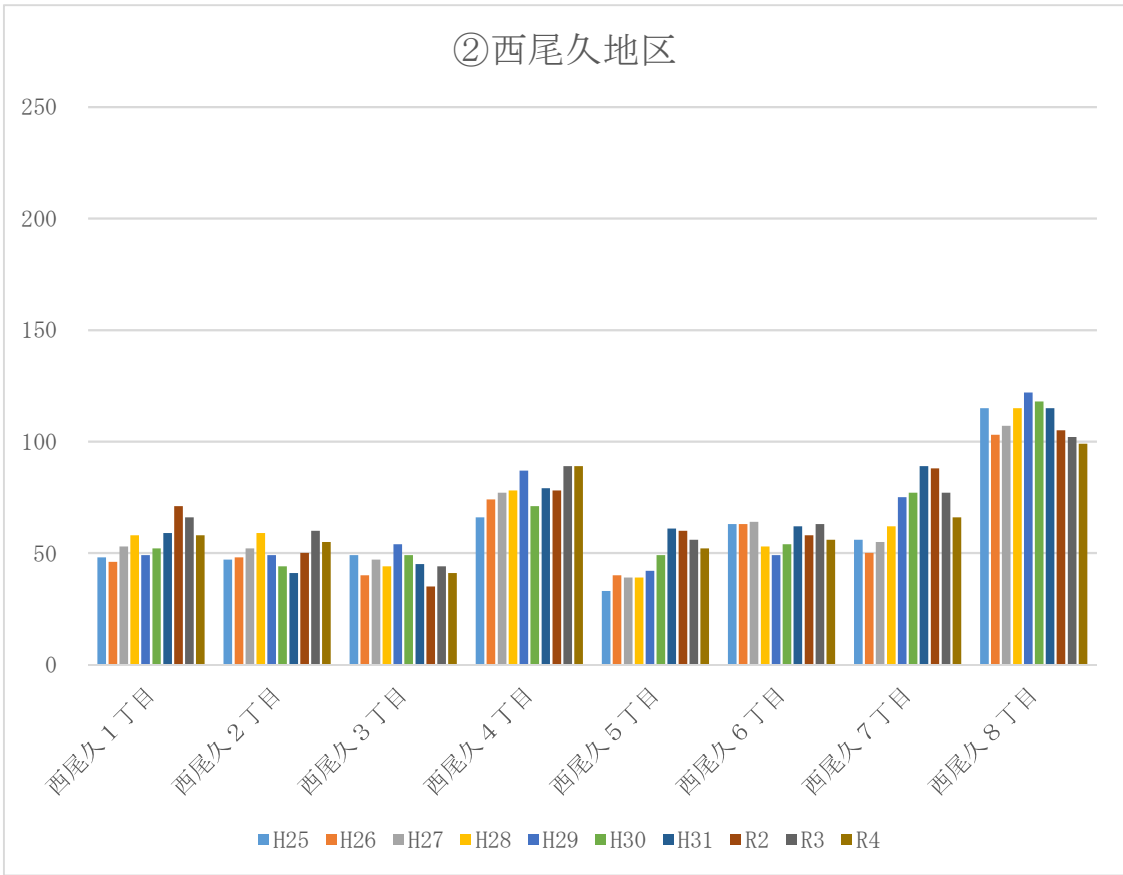
【尾久地区】



単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
東尾久1丁目	90	93	85	98	111	124	135	123	109	110
東尾久2丁目	105	91	82	83	91	91	95	104	98	100
東尾久3丁目	97	83	73	81	84	89	97	104	106	117
東尾久4丁目	89	83	86	73	80	85	91	82	68	76
東尾久5丁目	71	70	86	90	85	77	88	94	100	88
東尾久6丁目	70	84	86	82	102	109	114	93	104	97
東尾久7丁目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東尾久8丁目	98	104	95	77	78	86	87	82	80	84
東尾久全丁目	620	608	593	584	631	661	707	682	665	672
尾久幼稚園周辺 (東尾久1, 2, 4丁目, 西日暮里6丁目合算)	361	359	344	359	394	401	411	396	353	364

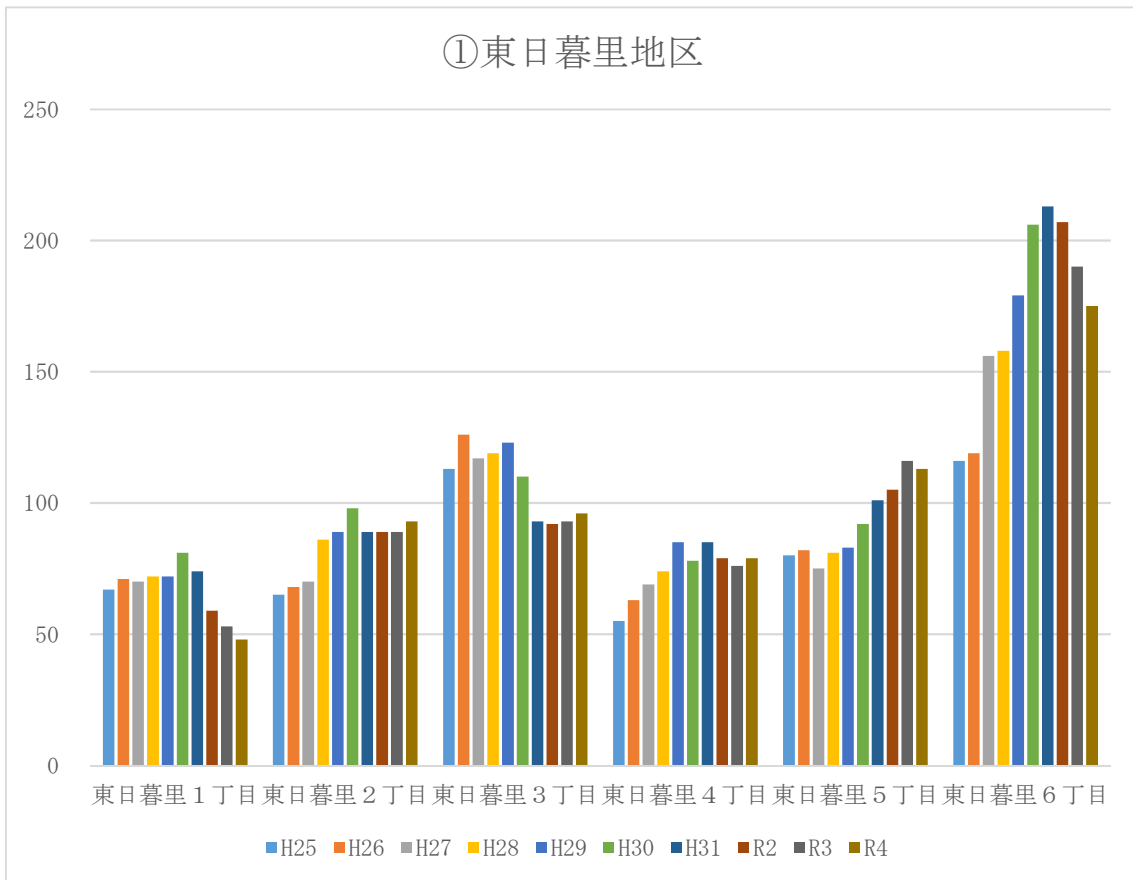
## ②西尾久地区



単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
西尾久1丁目	48	46	53	58	49	52	59	71	66	58
西尾久2丁目	47	48	52	59	49	44	41	50	60	55
西尾久3丁目	49	40	47	44	54	49	45	35	44	41
西尾久4丁目	66	74	77	78	87	71	79	78	89	89
西尾久5丁目	33	40	39	39	42	49	61	60	56	52
西尾久6丁目	63	63	64	53	49	54	62	58	63	56
西尾久7丁目	56	50	55	62	75	77	89	88	77	66
西尾久8丁目	115	103	107	115	122	118	115	105	102	99
西尾久全丁目	477	464	494	508	527	514	551	545	557	516
尾久二幼周辺 (西尾久5～8丁目合算)	267	256	265	269	288	298	327	311	298	273

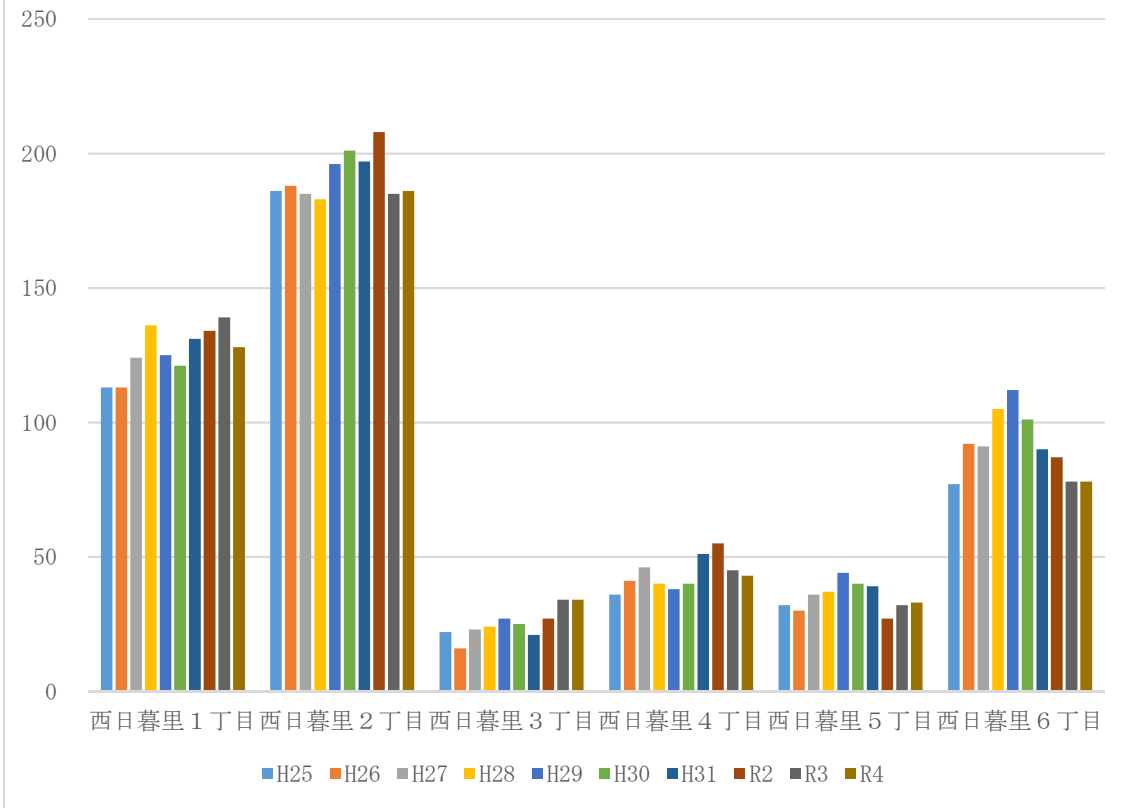
【日暮里地区】



単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
東日暮里 1丁目	67	71	70	72	72	81	74	59	53	48
東日暮里 2丁目	65	68	70	86	89	98	89	89	89	93
東日暮里 3丁目	113	126	117	119	123	110	93	92	93	96
東日暮里 4丁目	55	63	69	74	85	78	85	79	76	79
東日暮里 5丁目	80	82	75	81	83	92	101	105	116	113
東日暮里 6丁目	116	119	156	158	179	206	213	207	190	175
東日暮里全丁目	496	529	557	590	631	665	655	631	617	604
日暮里幼周辺 (東日暮里3～6丁目, 西日暮里1,2丁目合算)	663	691	726	751	791	808	820	825	799	777
東日暮里幼周辺 (東日暮里2～6丁目合算)	509	540	562	599	642	676	682	677	680	669

## ②西日暮里地区



単位：人

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
西日暮里 1 丁目	113	113	124	136	125	121	131	134	139	128
西日暮里 2 丁目	186	188	185	183	196	201	197	208	185	186
西日暮里 3 丁目	22	16	23	24	27	25	21	27	34	34
西日暮里 4 丁目	36	41	46	40	38	40	51	55	45	43
西日暮里 5 丁目	32	30	36	37	44	40	39	27	32	33
西日暮里 6 丁目	77	92	91	105	112	101	90	87	78	78
西日暮里全丁目	466	480	505	525	542	528	529	538	513	502